

21世紀にもやっと慣れた今日この頃、今年も加茂の皆さんに幸せあれ！

本日も美味しい野菜があった

里山通信の16年新春号で書かせてもらった「養老溪谷癒しの里構想」のうち、小さな一歩ではあるが駐車場とシャトルバスが昨年の秋に実現した。市原市と大多喜町が協力して立ち上げた「養老溪谷観光推進協議会」で千葉県の補助金をもらいながら実行できたわけだが、今年にはさらに充実した展開を期待しています。

県の補助金はどうか？ 無い様なのだが、せっかく基が出来たのですからこれを民間主導で発展させていけたら素晴らしいと思っています。

それでは今年の「初夢」。加茂地区の野菜生産のほとんどは自家用だと思えます。自分の家で食べきれないものは近所や親戚に配るくらいでしょうか。山菜も多分同じような扱いでしょう。

そんな経済的に価値を見出せなくなった野菜たちです。年々作付け面積も減っていることだろうと推察します。しかしこの自家用の野菜たちには実は大変な価値があります。自家用ですから極力農薬を使わない。旬にしか作らないから野菜本来の味がする。輸入野菜より

あつ！それいい加茂

徳島の山間部の村では、高齢者が料理を飾る木の葉を採って市場や料亭と直接取引を立派なビジネスとして成り立っている。仕組みを作った人は苦労もあつただろうが170名の高齢者が稼ぎ出す金額は年間2億5千万。平均で150万円。稼ぎ頭は500万円を超えるそうだ。柿の葉やもみじの葉っぱでこの金額。

読者の皆様、あけましておめでとございませう。先日こんな電話がかかってきました。「こちらの電話のほう、鈴木さんのほうでよろしかったでしょうか？」

おいら「はい」

電話の人「鈴木さんはパソコンのほうはお使いになつてたでしょうか？」

おいら「今も使ってます」

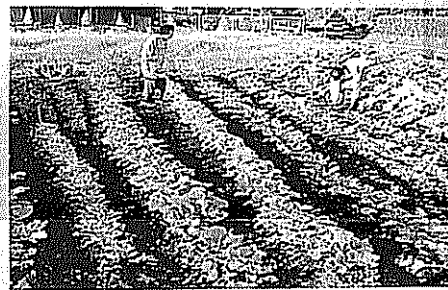
電話の人「そうしたらインターネットのほうはお使いでしたでしょうか？」

おいら「今も使ってます」

電話の人「こちらの電話のほう、〇〇のADSLのお勧めの電話になるんですが・・・どうしたらいいですか？」

おいらの家で分かつて電話してるんでしょに偶々掛けてきたように言つて欲しくないし、「ほう」つてのは2つ以上の物や事がある場合に1つを指し示す場合に使うんじゃないでしょうか？

「のほう」「でよろしかったでしょうか？」「うんになります」
「このように表現をされると話し手の意志が曖昧



やっほい家の野菜がいちばんうんめいよー

今どきの日本語？

(大曾根里山通信員)

いつの間にか荒れていた農地がよみがえり、里山も魅力を取り戻す。過疎と少子高齢化に悩む加茂の地がいつの間にか賑わう地域に。そんなに難しいことではないような・・・

近所の底力を発揮しよう

(鈴木里山通信員)

以前にこの通信で、加茂地区にしばしばやってくるさまざまな詐欺商法に対しての提案をしたことがあります。テレビ等で騒がれたリフォーム詐欺や振り込み詐欺に限らず、NTTやNHK、東京電力の名を語ったり代理店と称してのあの手の詐欺商法は、人が良くて独居老人の多い農村地帯をターゲットにしています。家と家が離れていたり、隣近所が屋敷家を空けていたり、人を信じ易い人が多い加茂地区のような農村地帯の利点が、だます側にとっては都合よく使われているのです。そのやり方は段々に巧妙になり、チームを組んで組織的なものになってきています。(一番弱い子供を狙った犯罪が各地で発生したり、人の良さにつけこんだこうした詐欺が蔓延したり、実にいやな世の中になったなと思います。いまでは気安く子供に声を掛けられないし、学校は門を閉ざしたままになってしまいました。昭和三〇年代まで鍵など掛けなかった家が多かったことなどは昔のことになってしまいました。)



(征矢里山通信員)

手をこまねいてただ嘆いているだけでは何も解決はしません。いまこそ、近所の底力の発揮のしどころです。前にも提案しましたが、まず町会単位で連絡網を作ったり、どういった行動をとりたいのかマニュアルを考える。今各町会で考えなければならぬのはこのことではないかと思えます。町会長さんは年間を通してさまざまな行事にかり出されて、さらに会議数が増えるのはごめんだと思いかも知れませんが、身近なところで切実な問題が詐欺商法、それも各家庭にやってくる詐欺グループです。それぞれの家庭がそれぞれの対応を迫られているのが現状で、もうそういう状況では対応しきれないところに来ていると思います。この地域には通用しないと思わせることこそ、一番の対処方法ではないでしょうか。またこれには行政の協力も必要です。市原市では「犯罪をなくそう」キャンペーンを展開し、巡回パトロールを増やしたりして夜を中心とする犯罪に対してはそれなりの効果を挙げているようですが、詐欺商法にも力を入れていただきたいと思います。一番効果的だと思われるのは災害無線とか広域放送と呼ばれて、夏場に光化学スモッグ注意報を流したり、行方不明の老人の発見への呼びかけを流しているあれです。自分の家に詐欺商法のメンバーがやってきたらいち早く市役所などに連絡して、この放送網を使つて大々的に流すことです。どこにいても聞ける放送ですから、詐欺グループにも聞かせる。具体的な特徴までも含めて放送したら、それでもなおそこにどまってる者はいないでしょう。真偽の確認の問題、その他クリアしなければならぬ問題はあっても、今市民が最も求めている「安心して住める街」づくりに本気で取り組む気があるのなら、ここは市役所の底力を見せたいところだと思います。近所の底力と市役所の底力が協力し合ったら全国から注目されるような「安心して住める街」になると思えます。

丸山浩路と弁士付き無声映画 ナンバーワンよりオンリーワン

平成十一年は大曾根通信員の熱い思い入れで丸山浩路氏の講演会を行いました。「丸山浩路はいい、ぜひやりたい」といっても、その人がどんな人か何をするかなど他の人間はまったくわからない状態でしたが、一人の熱い思いでライブの開催を決めてしまおうと加茂青年部などで、交渉などすべてを彼に任せて進みました。丸山浩路氏の講演のビデオがあるというのでそれを見せ

てもらったところ、講演だけではなく、普段の姿や生い立ちなどが語られていて、これはぜひ一度生で見たらいいと思いました。丸山浩路氏の講演というのは市原青年会議所が以前から洋上セミナーのひとつとして取り組んでいました。「子供らがみんな涙すっただよ」というのが、大曾根通信員の言葉でした。これをぜひ野外音楽堂で開催したいという思いは、しかしながらまたもや台風がらみの雨天でかなわず、会場を高滝小学校に移して行われました。会場にいた多くの人に強烈な印象と感動を残し、「ナンバーワンよりもオンリーワンのフリーズをみんなの心に残しました。」「世界にひとつだけの花」よりもはるか以前から彼はこの言葉を訴えかけていました。

一切手抜きなし

一番感心したのはそのリハーサルの手抜きのなさです。本人にとっては当たり前のことなのかもしれませんが、講演のようなものでは本番ながらにリハーサルをするというのは珍しく、仕事に対する真摯な姿勢が垣間見えたときでした。また、本番まで決して会場から去らず、常に会場の片隅にいてお客さんの様子や状況、反応をしっかりと捉える姿勢にも好感が持てました。彼はNHKで手話の番組にも出演していて、手話によるニュースの伝達もしています。高滝でのライブはチャリティ

加茂青年部は 何をしてきたのか

PART3

無声映画がまたあった！

平成二年はライブを始めた当初からやりたかったことを初めて行いました。

昔、映画にまだ音声の入らない時代、映像と映像の間にせりふの白文字がでる無声映画というものがありました。そのころは弁士なるものが舞台の脇にいて、何人ものせりふを言ったり説明をしたりしていました。この弁士付きの無声映画の上映が現在も行われていることを知る人はとても少ないと思います。松田春翠という最後の弁士がこの形を残すために私財を投じて無声映画を収集し、新宿の紀伊国屋ホールで定例会を行っていました。東京で仕事をしていたころ時々見に行っていました。そこではバイオリンとア

講演だったのですが、彼は出演料の中から三万円を寄付してくれ、さらに後日親戚の丸山浩路の「雪中梅」の吟醸酒を送ってくれました。当然、みんなでおいしくいただきました。丸山浩路氏のチャリティ講演はのちに平成十三年にも行ったのですが、このときも野外での講演はままならず、小学校の体育館で行われました。丸山氏はすでに還暦を迎えたはずですが、まだまだ若々しく日本全国を飛び回り大活躍をしています。大曾根通信員や「伝心柱」で活躍する深山君などの熱い思いで、加茂中や南総中での再度の講演会も実現し成功したことです。年を増すことにますます熱くなる丸山浩路氏の更なる活躍を祈りましょう。

ものとなつていますが、その昔学校や地域にやつてきた巡回映画というのが原体験としてある世代としては、野外でしかも弁士付きの無声映画という体験こそまさにライブ感覚の醍醐味そのものではないかという気がしました。松田春翠は亡くなつてしまつたものの、幸い、その弟子の松田翠という女性が後を継いでただ一人頑張つていましたので、この方に来ていただくことになりました。

この野外映画会の企画を提案したところ話はずいぶん決まりました。問題は何を上映するかということでした。ここに至ると、それぞれが自分の思い入れのある作品の話を始めて、話しあつちに行きこちに来てといういつものワイワイ状態になりました。しかしながら、「あれはいい、あれ見たら泣いたよ。あれにすっぺ」というべつべつ語講師戸澤通信員の魂を激しく揺さぶるようなラストシーンの思い入れの深さと涙に軍配は上がり、作品のひとつはチャップリンの「街の灯」となり、もうひとつは坂妻三郎の作品となりました。

さて当日、またも雨。夕開迫るもまだ明るい小学校体育館の窓を暗幕で覆い、垂木とベニヤでスクリーンとなる装置を組み立て、そこにシートを張り巡らし雰囲気はまさに映画館。小柄な松田翠さんがやつて来て弁士付きの無声映画が始まれば、そこは大正から昭和初期に掛けての古きよき時代にタイムスリップ。これがもし、野外で、はたらくスクリーンで、弁士がついて、という当初の計画通りであつたなら、さらに記憶に刻まれるものになつていただけないかと思ひます。

ライブ活動ついに終了！

翌平成十三年に、初めに述べたようにもう一度丸山浩路氏の講演会を開いて、加茂青年部はライブ活動の幕を閉じることになります。

今回はこの里山通信がどのようにして出来上がったのか、又これまでのライブ活動と里山通信に共通してあるものは何か、そんなことを書いてみたいと思います。

(征矢里山通信員)



丸山浩路

がんばれ！青年団

柿木台昭和会

柿木台昭和会(宮崎昭弘会長)は、平成元年4月に設立され、昭和の年号を残す意味もあつて命名されました。

当時消防団の統合が行われ、柿木台独自で集まれる会を作ろうとしたのがきっかけのようです。

現在会員は18名、26才から52才まで幅広い年齢層で構成されています。

主な活動は、町会から依頼される仕事が多く、U字溝の掃除や打ち、ゴミステーションの整備、高滝神社の神輿への参加などです。

もちろん会員相互の親睦も大切な目的です。ほぼ毎年行う旅行や、里見地区内青年会対抗のソフトボール大会などにも積極的に参加しています。

町会内に若手が少ないのでどうしても会員の高齢化は否めませんが、町会のために一生懸命サポートして行きたいと思つています。

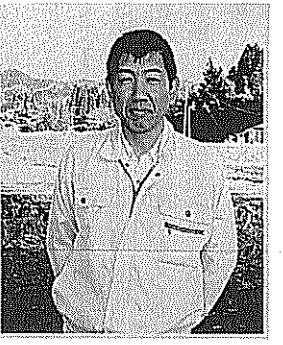
今、どこの青年団でも一番の悩みが会員不足でしょう。しかし、宮崎会長の話を聞いていてもその悩みに悲壮感を感じないのです。決して多くない柿木台の戸数からみて18名の会員がいるのも立派なことだと思います。

昭和会は特に年齢制限など設けておらず、むしろ若い規約なども無いそうです。会長曰く、あまり規約など作らず、気楽に集まれる会でありたいとのこと。

それが良い効果となつて会を維持しているようです。また、年配の方達から神社鳥居のしめ縄作りの時など積極的に参加して教わるなど、各会員が将来町会を背負う事を自覚して活動しています。

町会を親身に愛す、地味だけどしっかりととした青年団がここにありました。

(佐久間里山通信員)



人当たりの良い佐久間里山氏

やじ北

初期の加茂青年部は... 3号にわたつて、征矢通信員の「加茂青年部は何をしてきたのか」が連載され(まだ、終わる気配がありませんが)好評を得ておりますので、この機に乗じて初期の加茂青年部について簡単に振り返つてみたいと思います。いわば、加茂青年部の「エピソード1」といったところです。

加茂青年部は市原商工会議所の五番目の青年部として、昭和62年10月2日(金)、養老溪谷の旅館寛代元において誕生しました。わたくしは当時五井地区担当として、五井青年部のV副部長と共にその場に立ち会いました。(18年後の今、このような関わり方をすると夢にも思わずに)

林進二氏を部長として、20名以上のメンバーが集まつたように記憶しています。その後部長が林進二氏から石渡文則氏に代わるときに加茂青年部の担当となつたのであります。

当時、会議は月崎の加茂支所で夜おこなわれていましたが、ある日の理事会では石渡部長と二人きりで、待てど暮らせど誰も来やしません。電話を掛けても「急用ができた」「具合が悪い」などの返事ばかり、仕方なく近所の焼鳥屋(今はない)に場所を移し、青年部の未来について熱く語り合った覚えがあります。

その頃はまだ、「ライブin高滝」や「イカダ大会」といったイベントがおこなわれる前で、視察研修会、講習会、ゴルフ大会、カラオケ大会などの行事がメインでした。その中で、5地区の商工会議所青年部で取り組んでいた事業が「ミスいちばらコンテスト」でしたが、平成8年予算の削減により「ミスいちばらコンテスト」もあえなく最後となりました。

しかし、このミスコンのお陰で他地区の青年部との交流が生まれ、現在でも大変に良い関係が続いています。

昨年で加茂青年部という組織はなくなりましたが、その本質的なものは加茂里山通信に姿を変えて、しなやかに生き残っているのです。(じぶといこと...) (北里山通信員)

いよいよ加茂バス走る?

生活の足は
どうなる?

コミュニティバス
試験運行へ

交通過疎からの脱却を
目指して検討を重ねてき
た交通会議

昨年、たたき台を作る
ために7名の委員を選定
して原案が出来つつあり
ます。

2台のバスをチャーター
して、朝・夕は通学時間
に合わせた運行。昼は通
院や買い物に使えるよう
に加茂地区内を巡回する
ような運行を考え、運行
ルートと時刻表までは何
とか形になってきました。

費用についても市役所
が交通対策の補助金条例
を制定してくれ、すでに
青葉台地区で17年度か
らコミュニティバス運
行が始まったこともあり、
加茂地区での運行組織が
固まれば18年度には実現する可能性が
かなり高くなって来ました。

ただし、今まで存在しなかった交通手段
をどれくらい浸透させることが出来るのか。
利用者が本当にどれくらいいるのか。

アンケートや市場調査ではなかなか把握
できそうも無いところなので2ヶ月程度の
試験運行をしてみても実態把握をしてみたら
どうかという案が出ています。

また、昨年末に国土交通省の千葉運輸支
局にお伺いして運行原案に対して法規制に
照らし合わせた確認もしていただきました。
加茂地区が交通空白地域だということもよ
く理解していただき1月中旬にはバス事業者
も同行しながら提出書類の説明を受けるこ
とになっています。

子供たちを守ろう!

昨年多発した子供に対する事件、事故の
こともあり、行政もただ生活交通の利便性
だけでなく安心、安全への効果も期待でき
るとして非常に協力的に応援していただ
ける環境になって来ました。
なんとか早めの運行に向けて一歩ずつ前
に進めて行きたいと思っています。

課題として、補助金受領と運行管理のた
めに、関連する町会が認証した組織を確定
させることが必要になって来ます。

具体的な案を作成して地域の皆さんにお
伝えできるよう準備中ですのでご理解とご
協力をお願いいたします。

(大曾根里山通信員)



昨年、一足早く運行を始めた
青葉台地区の「あおばす」

助健家車



加茂の車寒から

明けましておめでとう御座い
ます。今年もよろしくお願
いします。

さて、皆さんは毎日寒い日
をどうお過ごしですか?

ニュースでは連日のように
記録的な豪雪、寒波と騒いで
いますが、この加茂地区も例
年よりも厳しい寒さになって
いる様に思われます。道路沿
いにも雪があり、また路面が
凍結したりと、早朝に通勤や
通学などに大変支障きたして
いる方が多いと思います。

でも、なぜそんなに支障を
きたすのか?そうなんです!この
加茂地区の皆さんが、生活の
中に欠かせない自動車を使用
しているからです。私は、見
出しでもそうですが、生まれ
は加茂地区、"斎藤医院"、
(車の中では、生まれてませ
ん!)育ちは車で囲まれた家の中、先程
の皆さんといっしょで、自動車なくては
"どうすんの?"状態の中、現在に至って
います。ひと昔前では、雪が降っては事故
車引き上げやタイヤチェーンの取り付けな
ど、早朝、夜中と関係なく続く状況でした
が、現在では以前の様な忙しさはなくなり
ました。(えっ、自社だけ?)それという
のも、近年ではスタッドレスタイヤという
優れ物の登場で、ちよつと位の雪では普通
に走行出来る様になりました。そして、そ
のスタッドレスタイヤもどんどん進化をと
り、最近では雪上だけでなく、氷上でも走
行、停止時に効果を発揮するという物も発
売されています。皆さんも一度は、氷の上
でのスリップの恐怖は経験されているとは
思いますが、"早く止まって神様、仏様、
瞬間が長く感じた"という人もいたと思
います。そんな恐怖や悩みを解消してくれ
たのは、この"スタッドレスタイヤ"なの
です。しかしながら、こんなに良い物が発

出ているのですが、残念ながら装着さ
れていない方もいる様なので、ここで宣伝
しちゃいますが、いかがでしょうか?(笑)
"加茂里山通信を見た"からとか、"神様、
仏様には、こんな事で頼りたくない"と言っ
ていただければ、新年大特価で販売いたし
ます。この機会にいかがでしょうか?
あつ、それからもう一つ、"私はもう2
3年前から装着してるわ!"また、"タイ
ヤの溝の残量があるから大丈夫よ!"と思っ
ているその奥さん!スタッドレスタイヤ
は、溝の残量が約半分までが効果を発揮し
ますが、それから先はノーマルタイヤと同
じなのです。また、溝があっても年数が経
過してゴムが硬くなっている物もダメです。
(この人は、スタッドレスタイヤにあこが
れてます。)"昔は、"Xと量"は新しい方
がいい。"と言いましたが、最近のマダム
たちは、"なんでも新しい方がいい"みたい
です。(すみません、私事で...)なにはと
もあれ、"もしかして、私の車も大丈夫か
しら?"と思った奥さん!今夜、旦那さ
んにお風呂あがりに甘い声で、"ちよつと
、私の、みて?"、そしてちよつと間を
あけて、"タイヤ"と言ってみてくだ
さい。タイヤの様なボツカリ穴の開いた夫
婦になるか?それとも、タイヤの様に不
足はならない夫婦になるか?さあ、加茂地
区マダムの皆さん、お試しあれ!
くだらない内容でしたが、スタッドレ
スタイヤについて、多少なりとも分かって頂
けたでしょうか?
それでは、最後にマダムの皆さんにひと
言!、結果はどうあれ、変な事は考えない
ようにしてく
ださい。旦那
さん!、わっ
わわわかって
あげてくださ
い。私は寝ま
す。おやすみ
なさい。..
(小茶里山通
信員)

小茶自動車
TEL 96-0482 冬期キャンペーン!
・スタッドレスタイヤ4本組み替え特価!
・有名メーカーカーナビ特価!

青色防犯パトロール実施中
南総地区職場警察連絡協議会(北島茂夫
会長)では昨年の9月から青色灯を付けたパ
トカーで防犯パトロールを続けている。
この協議会は南総幹部交番の管内にある
ゴルフ場や会社で組織されている。これま
で交通、防犯標語を募集し、幹線道路への
掲示を行ったり、各事業所の優良職員表彰
をしたり等々、長く活動してきた実績があ
るがさらに地域防犯の一助になればという
事で会費から車を購入。青色灯パトカーに
仕上げ、乗務員も会員各事業場の社員が担
当し、3人1組でのパトロール実施となっ
ている。
南総・加茂でも事務所
や商店への侵入盗、自販
機荒らしや車上狙いと被
害が出ており、
防犯パトロールの効果に
期待したいところである。



宝船プレゼント
ご好評に付き、今年も豪華賞品
満載の特製宝船を3名の方にプレ
ゼントいたします。
ご希望の方は、住所・氏名・電
話番号と里山通信へのご意見、ご
感想を添えて「宝船希望」と明記
してはがきで応募下さい。宛先
は
〒290-0081 市原市五井中
央西1-22-25 市原商工会議所
「加茂里山通信宝船プレゼント係」
まで。
〆切は1月31日(消印有効)
当選の方には直接連絡いたします。
賞品の引渡しは2月12日(日)
午後2時、月崎の商工会議所加茂
支部にて行います。取りに来られ
ない方は無効になりますのでご了承
下さい。
皆さんの中で「当たりこな
い」と思っている方、今年は
お年玉賞としてさらにあと7
名の方にプレゼントを用意し
ました。お楽しみに!



ところで、十一月の末にあつた事柄を一つ紹介します。近所の椎茸屋のS君は、H商店のまえで財布を拾いました。中には7万円以上のお金と保険証やキャッシュカードなど、落とし主にとつて大切なものが入つていました。正直者のS君はもちろん交番に届けたのでしたが、さらに謝礼辞退の書類(正式名称は「解りませんが」)を提出してきました。その後ポート屋さんの私のところに、「きつとボートのお客さんかもしれないで」とその旨連絡までしてくれました。その夜、財布の落し物がなかつたかとの電話があり「交番に連絡されたし」と答えた次第ですが、その後何の連絡もなくもちろん本人にもありません。そこまでするなら当人に連絡できただろうに、ろくでもない彼の友人達にアホ呼ばわりされている(もちろん私もそう思う)彼は本当にいい奴だよね!

(戸沢里山通信員)

では初っぺ語をどうぞ。

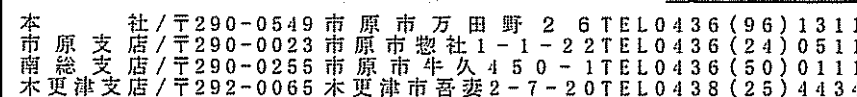
母「お父さんも普段から子供達に気をかけてね」父「ああ、ていげいこんままりにいつから声もかけつべいよ」娘「けど、おとうさんがいちばんあやしいっぺ。かがみみてみなーよ」んーん、たしかに鏡のなかにはいかにも怪しい五十過ぎの男が映っているな!

い物や野菜を茹でる際にお試し頂ければと思います。
(鈴木里山通信員)

塩への



▷ <http://www.yo-ro-kadoya.kamoseinenbu>



認定ディーラー ホンカ房総

太陽工業株式会社

代表取締役 大曾根 友三

TEL.0436-95-5641

F299-0221 市原市馬立414-1 Fax 0436-95-2235

ホームページ www.honka-bouso.com/ Eメール log@taiyo-loc.jp